

第4回 第39回日本診療放射線技師学術大会 (39th JCRT)
 第30回東アジア学術交流大会 (30th EACRT)



熊本への道 Go To KUMAMOTO

副大会長 沖川 隆志
 (一般社団法人熊本県放射線技師会)

熊本ゆかりの偉人

前回は、大会会場となる熊本城ホール周囲の魅力的な観光スポットをご紹介しました。今回は、熊本にゆかりのある偉人についてご紹介します。

1896 (明治29) 年4月13日、鹿児島本線池田停車場 (現在の熊本駅) に一人の英語教師が降り立ちました。その男こそが若き日の夏目漱石です。彼は旧制第五高等学校に向かう高台で、「熊本は森の都だなあ」と口にしたと伝えられています。漱石は4年と3カ月を熊本の地で過ごし、その後、ロンドンに留学しました。2年間のロンドン留学から帰国した3年後に、「山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかく兎角に人の世は住みにくい」——で始まる、名作『草枕』が誕生しました。今までに目を通された方は多いと思いますが、電子ブックを手にして、熊本への道を楽しみにしていただければ幸いです。

感染状況の悪化に伴い、計画の変更を余儀なくされる可能性はまだゼロではありませんが、実行委員一同、計画通り成し遂げられると信じ、皆さまの記憶に残る学会になるよう、おもてなしの精神で準備を進めております。ぜひとも現地熊本にご参集賜りますようお願い申し上げます。



漱石が降車したとされる旧上熊本駅舎 (移築)



2015年に新築された駅舎